

「日本語の教材や図書に関する新しい情報がほしい」という海外の先生方の声をよく聞きます。このコーナーでは、最近出版された日本語教材や参考書を中心に紹介していきます。紙面の制約上、一回に多くの本を紹介できませんが、「海外の先生にとって使いやすい教材」「授業や研究の役に立つ本」、また、「知っていると便利な図書・資料」などを取り上げます。

- データ凡例 1 著者 2 出版社 3 刊行年月 4 ISBN 5 判型・ページ数 6 定価 7 その他

初級からいろいろな作文とスピーチが練習できる副教材



『日本語 作文とスピーチのレッスン ~初級から中級へ~』

データ

1 鶴沢梢 2 アルク (〒168 8611 東京都杉並区永福2 54 12 / TEL .03 3327 1101 FAX .03 3323 1001) 3 1998年12月20日 4 4 87234 928 8 5 B 5 判・176ページ 6 1,890円 7 別売カセットテープ(60分 x 1巻) 2,100円 (4 87234 929 6)

クラスで発表するために書く

この教材は、初級・中級レベルの学習者の作文と口頭発表の力を伸ばすための副教材です。どの作文もクラスでの発表を目的に書いて、その準備のために書くという点が、今までの作文の教材と違って、学習者はクラスの人に理解してもらえるように書いたり話したりする練習をします。

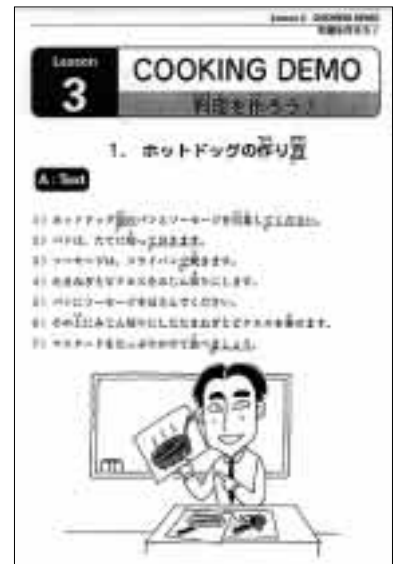
構成は、3つのPartからなり、Part 1には外国語での作文とスピーチについての著者の考え方が書いてあります。初級の段階からまとまった内容を一人で話す練習をすることの大切さなどが述べられています。Part 2はこの教材の中心で、作文とスピーチのための教材が11種類あります。たとえば、料理の作り方を書いて、発表する/絵本の絵をもとにしてお話を書き、クラスの人に絵を見せながらそれを読む/簡単な会話文を書いて、人形劇にして発表するなど、内容も発表の形態もさまざまです。スピーチのモデル文を録音したカセットテープもあります。

Part 3には、一人でスピーチの練習をする場合の方法が書いてあります。

この教材の最大の特徴は、初級・中級の学習者が楽しみながらスピーチの練習ができるような話題やタスクが選ばれていることです。学習者は、この練習を通じて自分で考えたことを表現する楽しさを感じることができるでしょう。

学習者や教師のために

クラス状況によっては、スピーチの練習を初級から取り入れるのが難しいような場合もあるかもしれませんが、Part 2のモデル文を読み、必要な語彙や表現を学習し、教師のアドバイスを受けることができるなら、学習者はきっと自分にもスピーチができるという気持ちになるはず。それぞれの練習の「instructions」には、準備から発表までの手順が英語と日本語でくわしく書かれています。発表のときに視覚的な助けになる絵や品物の効果的な使い方などの説明もあります。この部分は学習者にも教師にも参考になります。さらに、「先生に」には著者の経験にもとづいた教師のための注意点がていねいに述べられています。このように本教材は、クラスでスピーチをするときに、学習者にも教師にも役に立つ情報がたくさんあります。



P 39



P 49

教室活動を楽しむための道具箱 『日本語の教え方スーパーキット』



データ

■水谷信子監修・執筆・制作協力：

柵橋明美、木山三佳、久保田美子、

松本隆、遠藤藍子■アルク（〒168

8611 東京都杉並区永福2 54 12 /

TEL .03 3327 1101 FAX .03 3323

1001 1999年3月10日 絵カード

（白黒）動詞122枚、形容詞35枚、名

詞29枚、フレーズ25枚、白紙5枚=計

216枚 索引8ページ付、シチュエー

ションかるた（絵札62枚・カラー、

読み札62枚・白黒）かなカード・

数字カード（白黒）109枚 表面：ひ

らがな、カタカナ、裏面：数字、記

号（9種類）A4絵パネル23枚、書

き取り練習帳（A4版）模型時計

（紙製）ペープサート7種類、地図、

五十音表等6枚 9,975円

効率的な授業準備のために

外国語を教える場合、言葉による説明よりも、絵や動作など、目に見えるものを使って説明した方がわかりやすいことがたくさんあります。このことは、特に入門期や初級の段階で当てはまることが多いようです。この教材は、初級のクラスでよく使われているさまざまな教材を一つにまとめたものです。これがあれば、授業準備のための手間が省け、その分、より多くの時間をいろいろな教室活動を考えるために使えるでしょう。

工夫しだいで広がる使い方

持ち運びに便利な取っ手がついた箱の中には、「かなカード・数字カード」「絵カード・絵シート」「ひらがな表・カタカナ表」「日本地図・世界地図」「時計板」「シチュエーションかるた」「ひらがな・カタカナ・漢字練習用シート」「カレン

ダー」「ペープサート（会話練習用スティック）」の全部で9種類の教材が入っています。

これらは用途によって、大きく四つに分けられます。一つ目は、教室に貼っておいたりする地図や表やカレンダーなど、二つ目は、文型や語彙・表現の練習などの教室活動でよく使うカードやシート、三つ目は、楽しみながら学ぶためのゲーム教材、そして四つ目は、書く練習のための教材です。

もちろん、それらの用途はきまったものではなく、それぞれ、工夫しだいでいろいろな使い方が可能です。例えば、世界地図は、国の名前を教える時に使うのはもちろんですが、いろいろな国の学習者がいる場合には、Q&Aを使った自己紹介に使ったり、「～と～はどちらが～ですか」の文型に使用します。また、この地図には、世界の主な都市の時刻が書いてありますから、時計板を使って時刻の表現を覚えたあとで、時間や時差をたずねる簡単な会話練習へと発展させることも可能です。

絵カードは、これまでもいくつか出ていますが、このキットのものはこれまでのものと比べて、ちょっと小さめになっています。見やすさの点では、大きいものに一歩ゆずりますが、扱いやすさでは上かもしれません。さらに、内容的にも、これまでのものを十分検討した跡がうかがえます。例えば、実際には日常よく使われるのに、これまでの絵カードでは採り上げられなかった形容詞の一つとして、「じみな」があります。これが絵カードに入ったのは今回が初めてでしょう。しかも、「はでな」と並んで一枚の絵の中で描かれているところにも、経験を踏まえた工夫を感じます。

初級文型のためのゲーム教材「シチュエーションかるた」は、普通のかると

ちがって、学習者が取るカードには絵が書いてありません。つまり、読むカードに書かれている日本語の意味が正確に聞き取れないと、学習者はカードが取れないようになってしまいます。さらに、学習者にもカードを読む役ができるように、読むカードのうらには、アルファベットで文が書いてあります。

また、取るカードの裏にはひらがなが書いてあるので、文字の導入の後で、覚えたかどうかの確認のためにも使えます。

ていねいな解説書つき

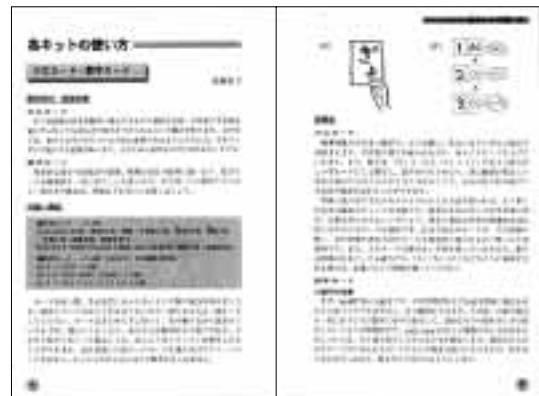
以上のように、この教材を十分生かすためには、教師一人一人の工夫やアイデアがぜひ必要なのですが、このキットには、その手助けとなる解説書がついています。この心のこもった解説書は、とりわけまだ経験の浅い教師にとって、この教材を使いこなす上で、何よりの強い味方となってくれるでしょう。これだけで、一冊の本に値する内容を含んでいます。



シチュエーションかるた



ペープサート



P.4 - 5

p.16～19は、以下の日本語国際センター専任講師が図書を選び、分担して紹介文を執筆しました。

木山登茂子、内藤満、高偉建、藤長かある、磯村一弘、向井園子（執筆順）

